

関西大学大学院外国語教育学研究科 主催 講演会

今この AI時代 だからこそ、 通訳翻訳

関西大学外国語学部・関西大学大学院外国語教育学研究科

阪本章子 教授 高橋絹子 教授

2025年11月8日(土)

受付開始12:30 PM

1:00 PM ~ 3:00 PM

関西大学東京センター

東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー9階

○対面のみ ○参加費無料 ○事前申込制 定員100名 (先着順)

【第1部】

「『翻訳』の看板を超えて：AI時代に求められる翻訳者の力」

阪本章子 教授

○要旨○

AI翻訳が発達した今、翻訳者という職業がなくなるのでは、と考える人も多いかもしれない。しかしそれは、いわゆる翻訳者の仕事を「狭義の翻訳」としてとらえているからだと言える。本講演では、現代社会で翻訳者のスキルが「翻訳」という看板のかかっていないところでも実は必要とされていることを示し、AI時代だからこそ翻訳の勉強をする意義について議論する。これから翻訳の勉強を始めようか悩んでいる若い世代へのメッセージになることを目指したい。



○略歴○

関西大学 外国語学部、外国語教育学研究科 教授、社内翻訳者・フリーランス翻訳者を経て英国レスター大学で博士号（翻訳学）を取得後、英国ポーツマス大を経て2022年より現職。専門分野は翻訳学（翻訳とテクノロジー、翻訳者労働論）。Translation Spaces, Perspectives, Journal of Specialised Translation などの国際ジャーナルに論文多数。テクノロジーが翻訳者の仕事に与える影響について調査する一方、これからの社会に求められる翻訳者の教育に努めている。

【第2部】

「『通訳』の看板を超えて：AI時代に求められる通訳者の力」

高橋絹子 教授



○要旨○

通訳という行為については、世間一般に誤解されていることや、その行為に職業として関わっている通訳者自身にも知られていないことが多い。また昨今のAIを搭載した各種の機器の登場により、これらの誤解や未知なることは増大する一方である。

本講演においては、まず誤解を解くために、通訳という行為がどのようなものであるのかという点に触れる。さらにAIの登場により、実際にはどのような影響が出ているのかという点を述べる。最終的には、このAIの時代に通訳の訓練を受けることは、意味のない無駄なことなのかという点について、考察を深めたい。

○略歴○

関西大学 外国語学部、外国語教育学研究科 教授、上智大学外国語学部ドイツ語学科卒業後、西ドイツ銀行勤務を経て、フリーランス英語通訳者。2013年上智大学大学院博士後期課程言語学コース修了。専門は応用言語学（通訳研究）、音声学。KAID（関西大学嵐山インフォメーションデスク）顧問。あらゆる角度から通訳研究を行い、広く社会に通訳（者）に関する啓蒙活動を行っている。

○対面のみ ○参加費無料

○事前申込制 定員100名（先着順）

申込×切：2025年11月5日（水）

申込リンク：<https://x.gd/q83ML>（または右のQRコードから）



関西大学大学院 外国語教育学研究科  gaiji@ml.kandai.jp